

平成30年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果

大 学 名	○上智大学、お茶の水女子大学、 静岡県立大学	タイプ	A
事 業 名	人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン 学習プログラムの開発		
海 外 の 相 手 校	カリフォルニア大学デービス校、ボストン・カレッジ、シアトル大学、 ロヨラメリーマウント大学、ゴンザガ大学、ポートランド大学、ノー スカロライナ大学シャーロット校、マルケット大学、サンフランシス コ大学、ヴァッサー大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、国際社会の課題解決における日米の協調とリーダーシップの促進の観点からグローバル・シティズンシップ教育に着目し、人間の安全保障と多文化共生、国際社会における課題発見や解決に貢献できる人材の育成を目指しており、我が国の大学教育における米国との連携を通じた国際展開として、大きな社会的意義が認められる。

また、これまでの国際交流の成果を踏まえ、上智大学が提供する英語による授業科目、お茶の水女子大学が提供する日本語教育、静岡県立大学が県内企業の協力を得て提供するインターンシップ等による国内循環型の留学生受入プログラムが計画されており、国内3大学や相手大学それぞれの強みを有効に組み合わせた連携となっている。さらに、COIL型授業の受講者数や派遣・受入学生数の目標が高く、COIL型授業の特性を活かして多数の学生に大きな教育効果をもたらす計画になっている点も高く評価できる。

一方で、オンラインの実績も少ない中で、COIL型教育の導入・活用の効果に懸念がある。また、日本人学生から見た魅力やプログラムの付加価値、メリットが明らかではない。多くの大学が関わる多層的なプログラムであるため、事業の具体的な焦点や実施方法、質の保証など、補助期間終了後にも継続的に運用していくための道筋がやや不明瞭であることから、これまでの実績を基に細部まで詳細に検討した上で、着実かつ持続性のある事業運営が望まれる。

最後に、今回本事業に選定されたことを受け、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。